

薬物の乱用は、 あなたとあなたの周りの 社会を壊します！



その好奇心が、
命取りになる。

麻薬・覚醒剤 乱用防止運動

「一度だけなら…」 あなたの軽はずみな行動が、
あなた自身やあなたの大切な人を終わりのない苦しみに導きます。

厚生労働省・都道府県

後援：(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター

覚醒剤や麻薬、大麻、危険ドラッグなどの薬物の乱用は、あなたの健康やあなたの周りの人々に計り知れない害悪をもたらします。たとえ1回だけでも「乱用」です。絶対に使わないでください。

薬物の乱用は大切な脳を傷つけます。私たちの脳は、20歳頃まで成長するといわれています。特に、小学生、中学生、高校生の時期は、心身ともに急速に発達するときです。この時期に薬物を乱用すると、脳や身体の成長がストップし、感情のコントロールができず、意欲がなくなる、怒りっぽくなるなど、心身の発達が損なわれてしまいます。

そして、薬物依存になると、不安、被害妄想などの症状が現れ、幻覚や妄想によって、殺人、放火などの重大犯罪を引き起こすこともあります。

また、薬物入手するために、無理な借金や窃盗、詐欺、売春などの犯罪を平気で犯すようになります。

薬物乱用のきっかけ

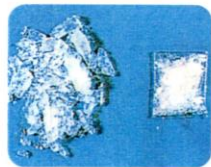
薬物乱用者の多くは、ほんのちょっとした好奇心から安易に使い始め、抜け出せなくなります。抜け出せなくなる理由には、次のようなものがあります。

- ① 薬物が身体に与える危険性・有害性を十分に知らない。
- ② 薬物は精神依存性が強いいため、ひとたび乱用を始めると自分の意志ではやめられなくなってしまう。
- ③ 薬物の取引による利益を資金源としている暴力団や外国人密売組織などが言葉たくみに勧め、大量に供給している。

薬物乱用とは?

薬物乱用とは、ルールや法律から外れた目的や方法でを使用することをいいます。覚醒剤や麻薬などは1回使用しただけでも乱用にあたります。

乱用される主な薬物



● 覚醒剤

幻覚や妄想が現れ、中毒性精神病になりやすい。使用をやめても再燃（フラッシュバック）することがある。大量に摂取すると死に至る。



● 大麻 (マリファナ)

知覚を変化させ、恐慌状態（いわゆるパニック）を引き起こすこともある。大乱用を続けると、学習能力の低下、記憶障害、人格変化を起こす。



● あへん系麻薬 (ヘロインなど)

皮膚が鳥肌立ち、全身の強烈な痛みと痙攣におそわれる（退薬症状）。大量に摂取すると死に至る。（写真はヘロイン）



● コカイン

幻覚や妄想が現れる。大量に摂取すると全身痙攣を起こすほか、死に至る。



● MDMA

知覚を変化させ幻覚が現れることがある。大量に摂取すると高体温になり、死に至る。



● 危険ドラッグ

吐き気、頭痛、精神への悪影響や意識障害などが起きる恐れがある。摂取した人が死亡した例がある。



● 向精神薬

睡眠薬、精神安定剤など医療用として用いられているが、乱用されると精神及び身体へ障害を与える。また、依存により、思考、感覚及び行動に異常をきたす。



● 有機溶剤 (シンナーなど)

情緒不安定、無気力となり、幻覚や妄想が現れ、薬物精神病になり、大量に摂取すると呼吸困難となり、死に至る。

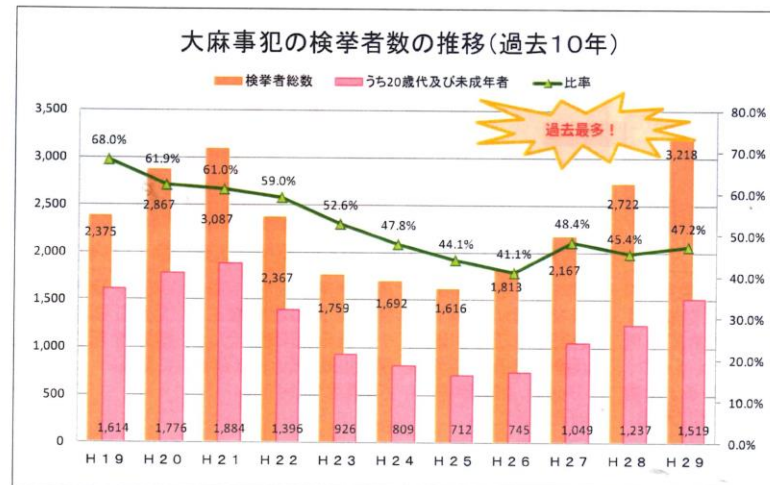
隠語

薬物は、別の呼び名で呼ばれている場合があります。

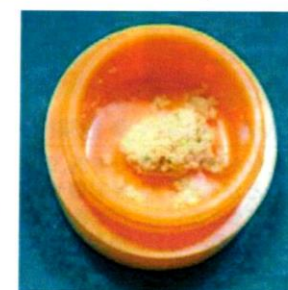
- 覚醒剤…………… エス、氷、スピード、アイス、シャブ
- 大麻…………… ハッパ、グラス、チョコ、クサ、野菜
- MDMA (錠剤型合成麻薬) …… エクスタシー、バツ(「X」、「罰」)、タマ(「弾」、「玉」)
- ヘロイン…………… ペー、チャイナホワイト、ジャンク
- コカイン…………… コーク、スノウ、クラック
- シンナー…………… アンパン

大麻 (マリファナ) は絶対に使用しない!!

- 平成29年には、過去最多となる3,218人が検挙され、そのうち約半数にあたる1,519人が青少年であり、青少年を中心に大麻の乱用の裾野が拡大しています。
- インターネット等において、「有害性がない」などの誤った情報が氾濫しており、青少年の大麻乱用の拡大につながっていると推測されます。



(乾燥大麻)



(大麻ワックス)

大麻に関する誤った情報に注意してください!!

- ✗ 大麻は安全、無害だ!
- ✗ 世界で大麻は合法!
- ✗ タバコや酒より安全!
- ✗ 大麻、マリファナ、ヘンプは違うもの!

全て誤りです!

なぜ、薬物乱用はいけないのか。

1. 脳をおかされて、心も身体もメチャクチャになる

覚醒剤の場合

幻覚・妄想
フラッシュバックを起こす。
血圧が異常に高くなる。
静脈に炎症を起こす。
強い疲労感や倦怠感、脱力感におそわれる。
依存性が強い。

シンナーの場合

記憶力低下、認知障害
急性中毒・事故
精神障害：有機溶剤精神病（幻覚、妄想）
重篤な依存症
視力の低下・失明
歯がぼろぼろになる
肝臓・腎臓の障害
生殖器の萎縮
手足のふるえ、しびれ、麻痺

コカインの場合

脈拍・心拍の増加
血圧の上昇
瞳孔の拡大

大麻(マリファナ)の場合

精神障害：大麻精神病（幻覚・妄想など）を起こす。
生殖機能への悪影響を起こす。
肺ガンのリスクを高める。

その他の害

薬物を注射で乱用する場合、各種の感染症（エイズ、肝炎など）の原因になります。大麻では精子の異常が、シンナーやコカインでは先天異常などの報告があり、妊娠、出産にも悪い影響があります。

危険ドラッグの場合

意識障害、嘔吐、けいれん、錯乱などが報告されており、死亡事例もあります。添加されている物質や含有量が様々であることから、どのような健康被害がおきるかわかりません。

2. 自分の意志では止められなくなる

薬物乱用の最も恐ろしい特徴は、薬物の“依存性”と“耐性”

依存性 一回くらいなら大丈夫と思っても、繰り返し使わずにはいられなくなり、薬物をやめたくてもやめられなくなってしまふ。

耐性 使用を繰り返しているうちに、それまでの量では効かなくなり、薬物の使用量が増える。

一回だけと思って始めた人も、薬物の“依存性”と“耐性”によって使用する量や回数がどんどん増えていき、どうしようもない悪循環に陥ります。もはやそうになると自分の意志だけでは止めることはできません。



3. 薬物乱用により凶悪な事件を起こす

- 薬物の乱用により、幻覚、妄想が現れ、殺人などの重大犯罪を引き起こす。
- 薬物を入手するための金欲しさに無理な借金や恐喝事件、窃盗事件を起こす。
- 密売や売春などの犯罪を犯すようになる。



4. 友達や家族を失う

- 薬物におぼれ、人間関係が破壊されることにより、友人、家族、恋人、社会から孤立する。



誘われたらどうする？

薬物乱用の問題は、一部の人たちだけの問題ではありません。

20代の約15人にひとり、10代の約28人にひとりが「過去1年以内に薬物使用経験のある知人がいる」と回答しています。また、20代の約3人にひとり、10代の約4人にひとりが、薬物の入手可能性について「なんとか手に入る」「簡単に手に入る」と回答しています。

■ 誘いの言葉にだまされない

- 「1回だけなら大丈夫」「やせられるよ」「みんなやってるよ」などの甘い誘いは、全部ウソです。
- 問題がある薬物を勧めてくること自体に違和感を持ち、危険を察知する判断力を身につけることが大切です。

■ 「はっきり、きっぱり」断る

- 誘われたとき、少しでも迷っている様子を見せてしまうと、また誘われてしまいます。誘われたときは、「きっぱり」断ることが大切です。
- 断りにくいときは、その場から逃げましょう。逃げることも勇気です。

悩んだときは、まず相談！

覚醒剤、大麻、危険ドラッグなどの薬物乱用に関わる問題で困ったときは、一人で悩まずに相談してください。

相談窓口では、相談に関する秘密は絶対に守ります。安心して相談できますので、全国の保健所や精神保健福祉センターなどにお問い合わせください。

薬物乱用の問題の解決には、大人の力が必要です。早めに、信頼できる大人に相談しましょう。

※相談窓口一覧は、裏表紙に記載されています。